

- 都市計画道路（大田神奈川線）の早期整備またはＪＲ南武線の高架化
- ガス橋西詰交差点の改良（河川敷を利用した道路拡幅可能性の検討）
- ＪＲ南武線の高架化による東西市街地分断の解消
- ニヶ領用水や既存の緑道等を活用した緑の回遊路の形成
- 平間公園周辺における緑豊かな都市空間の形成

⑦ 災害に強いまちづくり

1) 災害を起こさない

- ・東部地域は、多摩川に接していることから、洪水・浸水を未然に食い止めるための都市整備が必要です。
- ・また、大地震時の大規模延焼火災を防止するため、個々の建物の不燃化を促進するとともに、密集市街地における面的な不燃化を計画的に進めることが必要と考えられます。
 - 透水性のある舗装材の利用による市街地の保水機能の確保
 - 雨水浸透マスや雨水貯留タンク等の設置による保水機能の向上及び雨水の有効利用
 - ニヶ領用水、渋谷川、矢上川流域における保水・遊水機能の向上
 - 水害の発生危険性を低減する渋谷川の貯留管整備の促進
 - 水路の開渠化等による雨水調整機能の向上
 - 建築物の耐火構造化・耐震構造化に向けた誘導（地域地区指定）
 - 老朽木造住宅密集地区における耐火構造化及び共同化等の推進

2) 災害を拡げない

- ・大地震時の大規模延焼火災を防止するためには、広幅員の延焼遮断帯や大規模なオープンスペースが適切に配置されていることが求められます。
- ・東部地域には、幹線道路と鉄道敷が多く存在し、これらの沿道及び沿線の耐火構造化等を図ることで、延焼遮断帯が形成できるものと考えます。また、大規模工場等が多く立地することから、大規模敷地等における防災空地の確保等をめざすことも必要です。
 - 幹線道路整備及び沿道建物の耐火構造化による延焼遮断帯の形成
 - 適正な土地利用誘導による鉄道敷沿線の耐火構造化の促進
 - 防災機能を備えた公園の適切な配置
 - 大規模工場や公共施設用地、面的開発用地等における防災空地の確保・緑化推進
 - 平間浄水場等を活用した防災空地の確保
 - 防火用水として利用できる河川整備及び水量確保

3)安全に避難する

- ・安全に避難するためには、日頃からの防災に対する市民の意識向上が必要です。また、交通機関が麻痺しないための対策も必要となります。

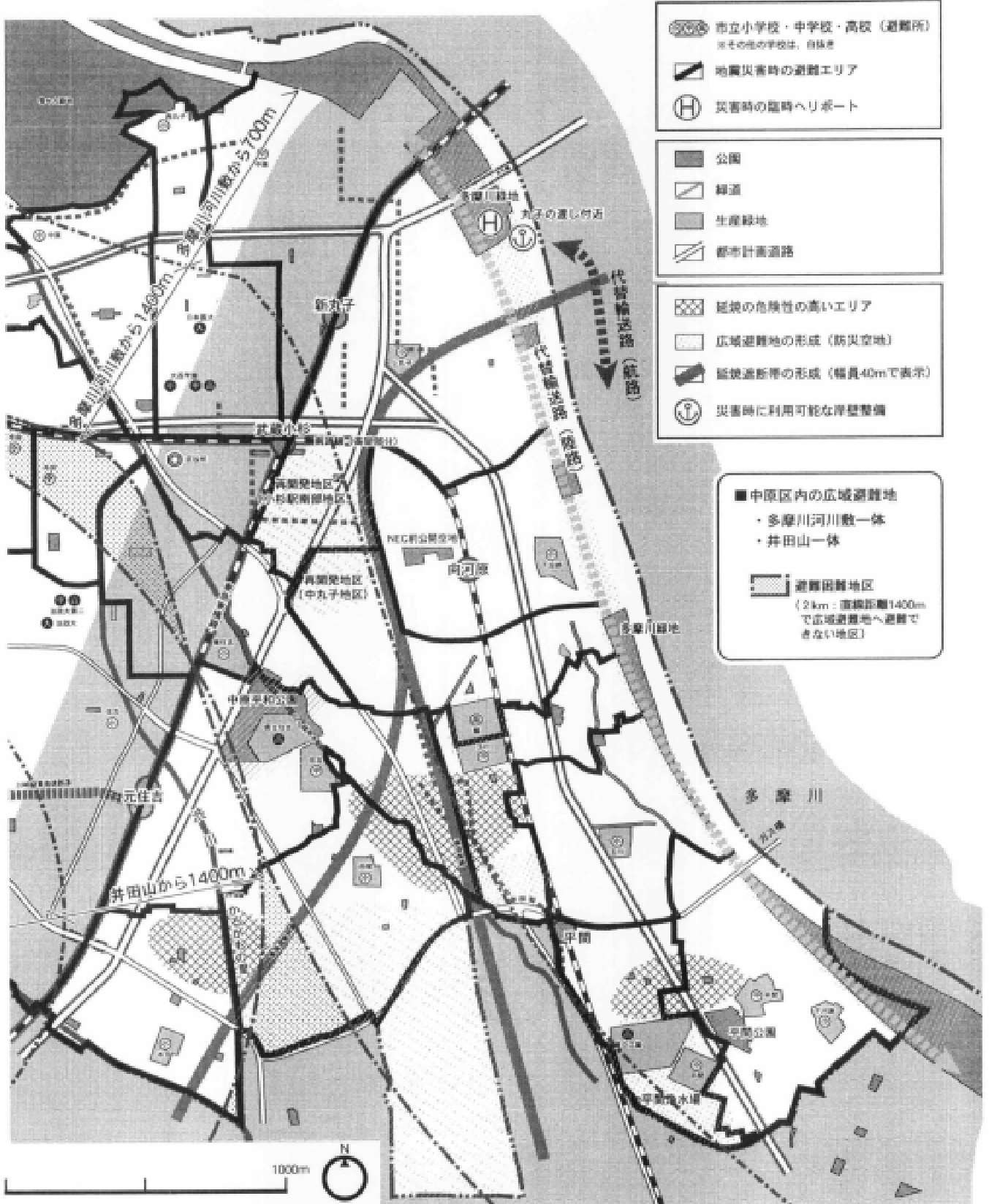
- 大量交通輸送機関の耐震構造化の促進
- 計画的な道路整備の推進（袋状道路の解消等）
- 垣根緑化の推進による安全な道路空間の確保（ブロック塀の崩壊防止）
- 防災活動拠点の整備
- 自主防災組織の活動支援
- 実情に即した避難エリアの設定
 - 市民参加による防災マップの作成等

4)迅速に復旧・復興する

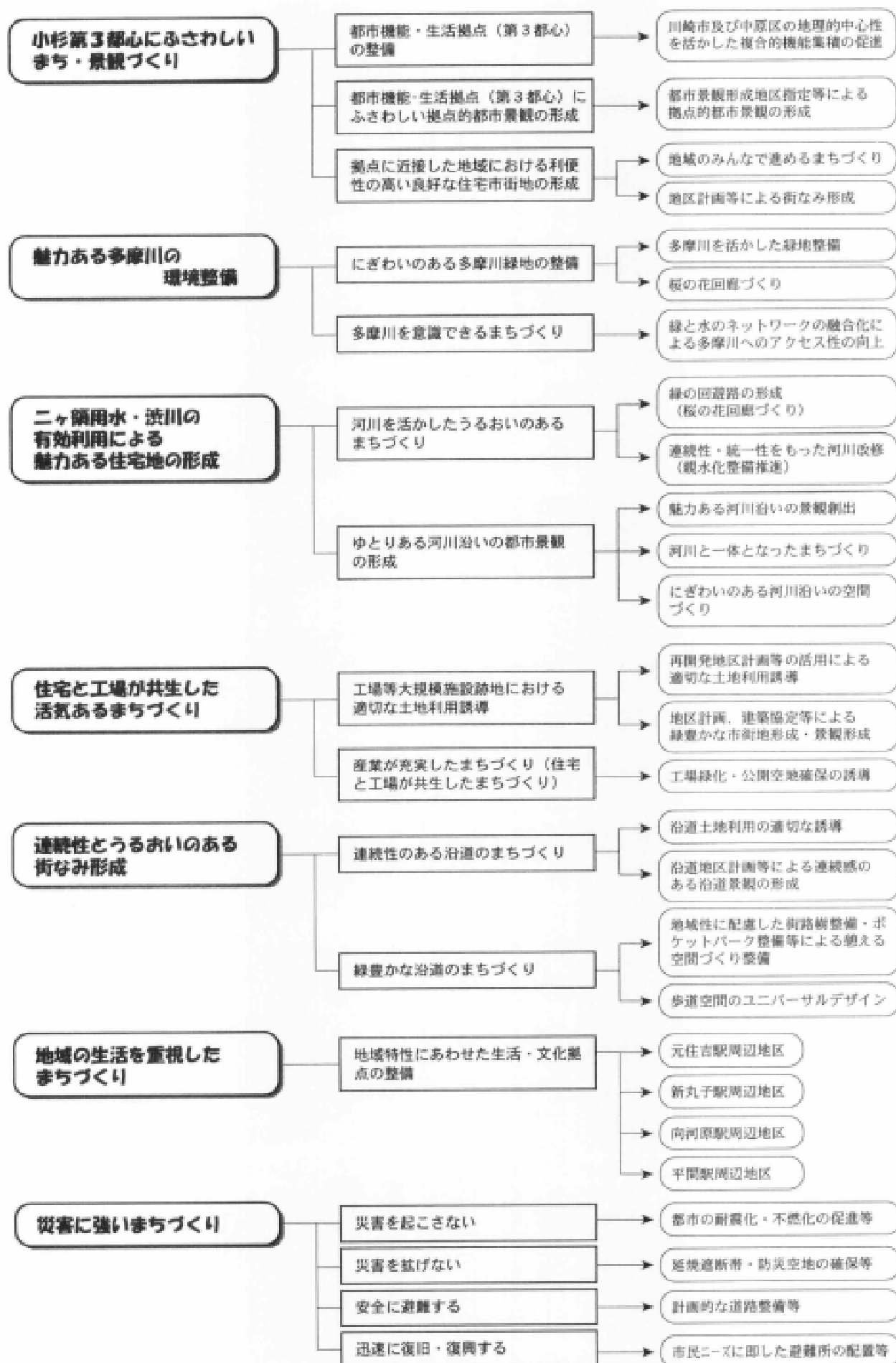
- ・災害により都市に被害が起きてしまった場合には、一刻も早い復旧作業により、市民の日常生活や都市機能を災害前の状態に戻すことが必要となります。
- ・このため、避難所を計画的に配置するとともに、救援物資等の輸送路を確保するため、現在の幹線道路が寸断された場合の代替手段を検討しておくことも必要となります。

- 市民にニーズを考慮した適切な避難所の配置及び備蓄品の充実
- 防災施設整備による災害時における物流ルートの確保
 - 陸上輸送路の確保：多摩川河川敷道路の活用及び災害に強い幹線道路整備
 - 海上輸送路の確保：丸子の渡し付近への岸壁整備の検討
 - 空中輸送路の確保：臨時ヘリポート（多摩川緑地）にアクセス可能な災害に強い道路整備

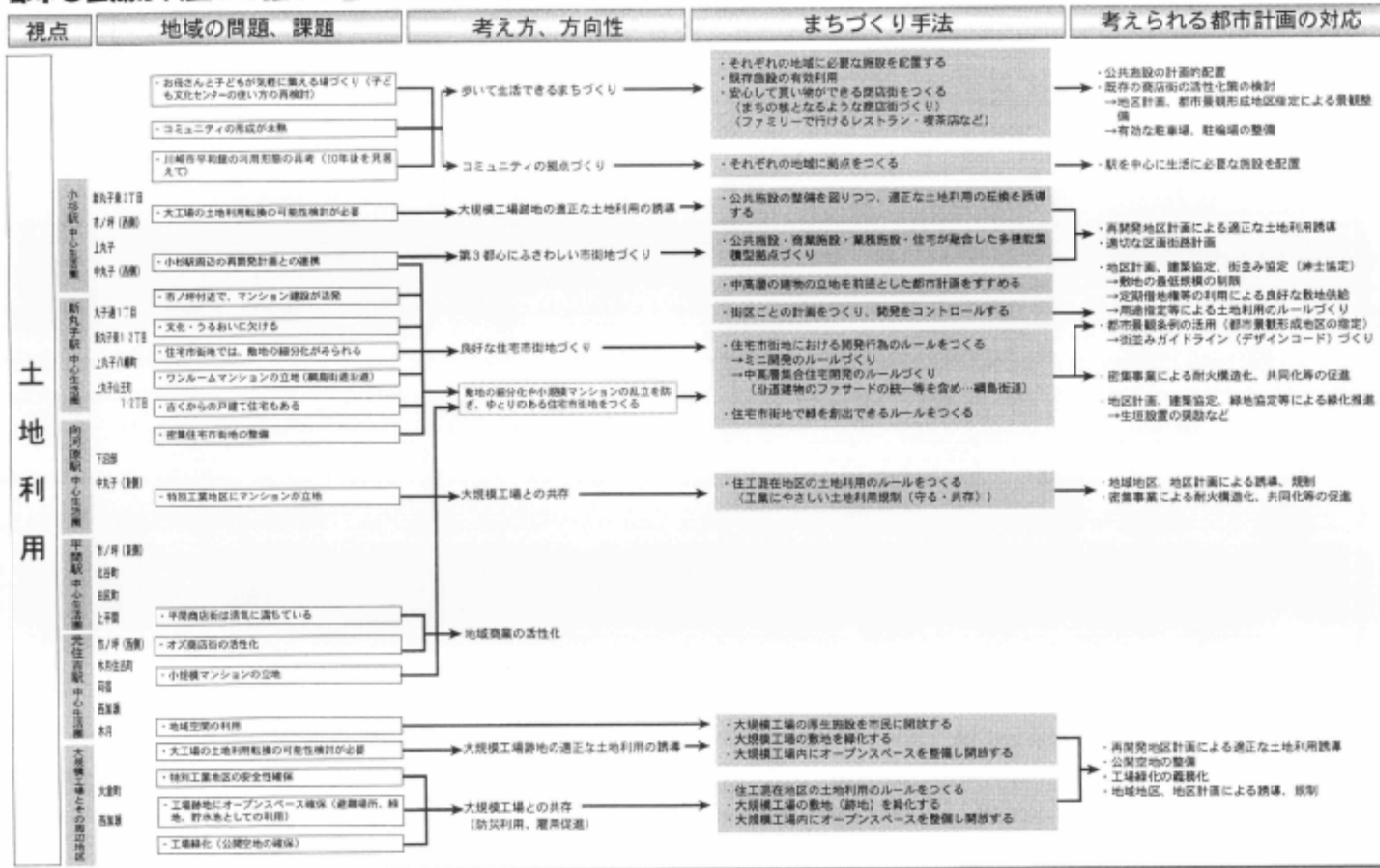
■災害に強いまちづくり方針図



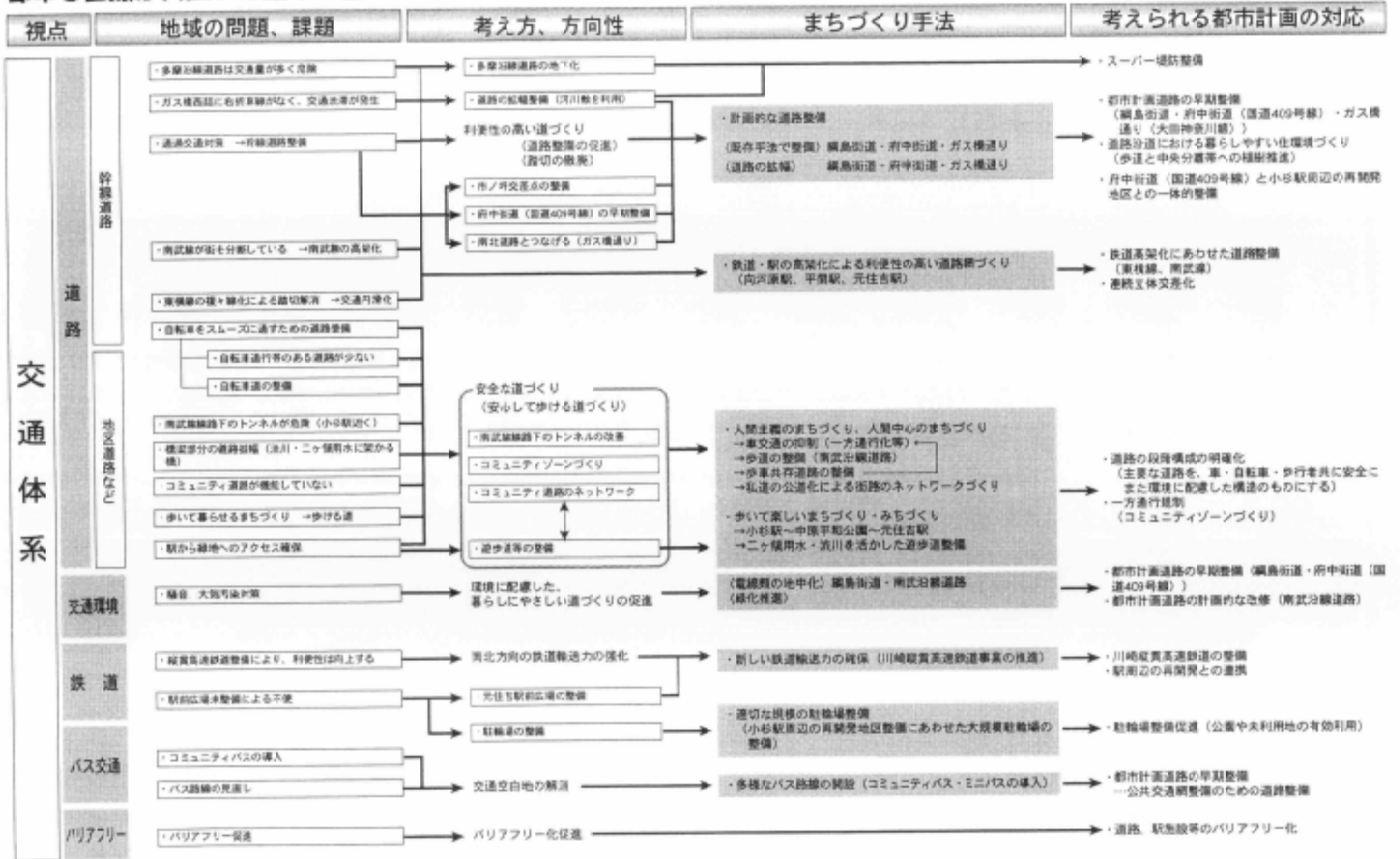
■東部地域の目標と方針体系図



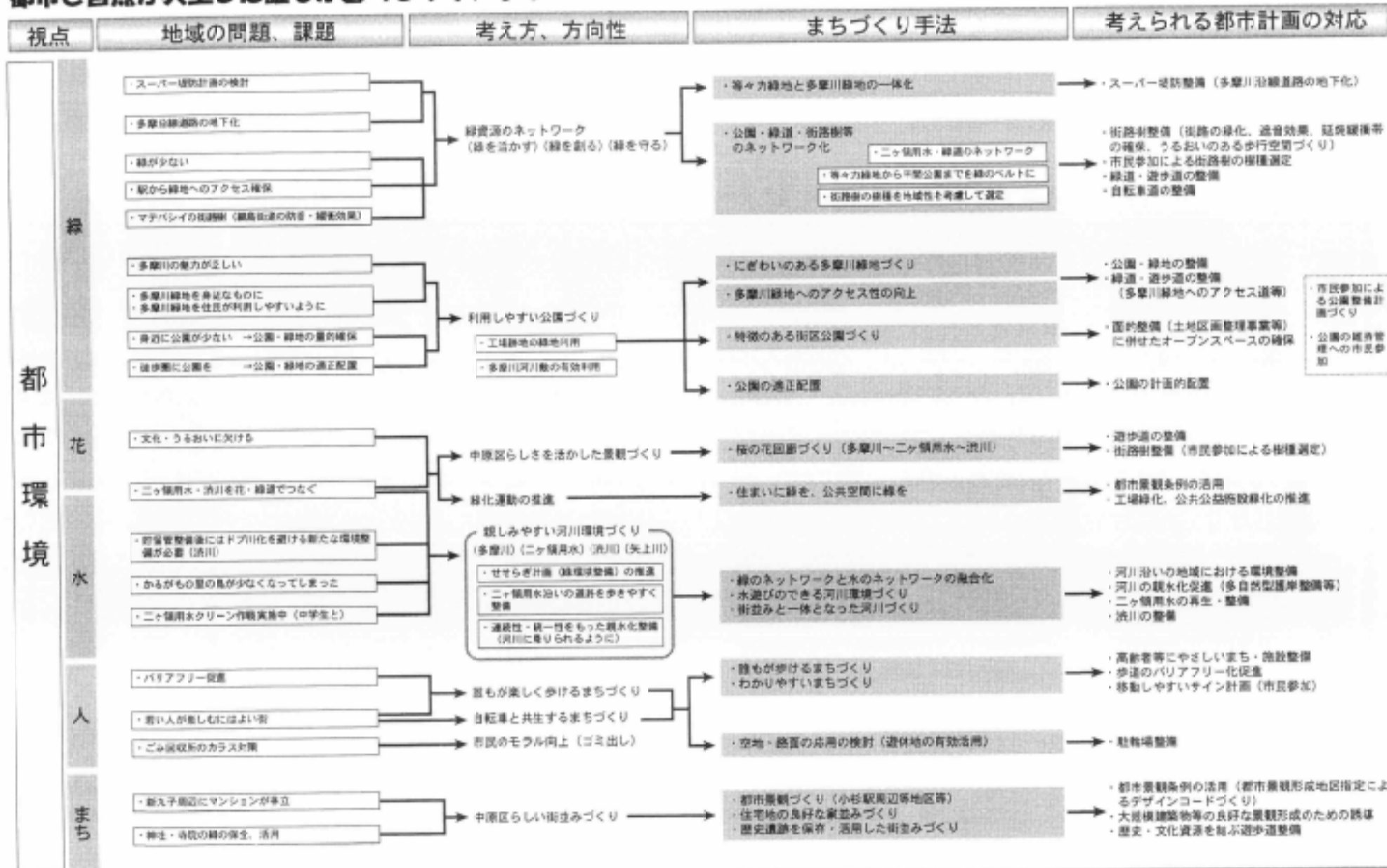
都市と自然が共生した誰もが暮らしやすいまち



都市と自然が共生した誰もが暮らしやすいまち



都市と自然が共生した誰もが暮らしやすいまち



市民参加による公園整備計画づくり
公園の維持管理への市民参加

都市と自然が共生した誰もが暮らしやすいまち

視点	地域の問題、課題	考え方、方向性	まちづくり手法	考えられる都市計画の対応
災害を回避しない	<ul style="list-style-type: none"> 集中豪雨に対する安全対策 調整機能をもった田畑の減少が激しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川、農地等の調整機能の再生・確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊水池の確保 ・下水道の処理能力の向上（合流式下水道の改善） ・浸透性のある舗装への改善 ・各戸への雨水浸透マスの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・保水・遊水機能の向上（遊水池の確保等） ・浸透性のある舗装（道路整備・改修等） ・河川の調整化等による雨水調整機能の向上 ・下水道の改修
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の観点から、目標の減少等と防災計画の位置等の示されたマップがあるとうい ・調整の観点からみた農業集落分布を知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い街づくり ・防災に関する情報提供の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・次第しにくい堤防整備 ・防災マップづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー堤防整備 ・市民の防災意識の向上 ・自主防災組織の活動支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・木造戸建て住宅が密集している地区が存在 ・古くからの戸建て住宅が密集しており、屋敷の危険性が高い（密集住宅街の存在） 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の耐火構造化・耐震構造化 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の耐火構造化・耐震構造化の促進 ・歴史的な都市の持続化促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐火構造化・耐震構造化に向けた誘導
	<ul style="list-style-type: none"> ・狭い道路が多い ・狭い道路が入りこんでいる箇所が存在 ・緊急車両が入れない密集住宅市街地が存在 ・幹線道路（都市計画道路）の未整備部分がある ・公園の空白地が存在する 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な延焼遮断帯の確保 ・初期消火のための防火ホースの整備 ・緊急車両の通行障害とならない道路整備 ・遊歩道の確保 ・防災上有効なオープンスペースの確保 ・工場跡地にオープンスペース確保（緑地としての利用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消火活動がスムーズに行える市街地整備 ・延焼遮断帯の整備 →幹線道路への街路樹整備 →狭い道路の拡幅 ・防災空地（オープンスペース）の確保 →公園等水場の有効利用 →神社等の緑の有効利用 →工場跡地を利用した緑地整備 →工場や民間グラウンド等と防災時連携に関する協定の締結 →工場敷地内の緑化推進 →各戸の壁面緑化による空間創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な土地利用の誘導 ・幹線道路整備 ・街路樹整備 ・面的整備に併せた狭い道路の拡幅整備 ・オープンスペースの確保（工場敷地内、再開発事業に合わせたオープンスペースの確保等） ・既存施設を利用した防災空地の確保 ・公園の適正配置 ・面的整備に併せた公園整備 ・地区計画による整備後退制限
安全に避難する	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所まで遠い ・避難所とその避難対象区域が、物理的な地形を考慮せずに設定されているケースがみられる ・避難所がわかりづらい ・防災空地の境界が住民に知らされていない ・住民への避難経路の告知が不徹底である ・住民への情報提供が徹底されていない（情報の混乱が生じている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の適正配置 ・避難エリアの適正な設定 ・詳細でわかりやすい防災マップの作成 （実地） ・防災に関する情報提供の充実 （災害時） ・災害無線の増設による適切な情報伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難地の整備 ・避難路の整備 ・防災マップづくり ・避難のためのサイン計画づくり ・防災マップの町内掲示板への掲示 ・地域防災訓練の推進 ・災害無線の増設 ・情報拠点の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・大量交通機関の耐震構造化 ・避難所の適正配置 ・避難エリアの見直し（自主防災組織） ・道路整備（広域幹線道路、支路の解消等） ・市民の防災意識の向上 ・区と町会の連携による防災対策・訓練 ・自主防災組織の活動支援→防災活動拠点整備 ・住民を安全に誘導できる防災施設の整備 ・防災活動拠点の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・物資輸送が滞った際の代替手段を検討する必要がある ・災害後の救援物資輸送路の確保が必要 ・河川を利用した物資輸送の可能性を検討する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の確保 ・代替手段の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の備蓄品の充実（マンホール設置型トイレ等） ・代替手段による物流ルートの確保 →道路→道路 →空路→ヘリポート →水路→岸壁（多摩川の丸子の渡し付近に整備） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに対応した避難所の整備 ・道路整備 ・防災施設整備（ヘリポート、岸壁）
迅速に復旧・復興する				